

イネ科通信 56

スズメノテッポウ



スズメノテッポウは水田などの湿地に群生する1年草です（左の写真）。稈は高さ5～20 cmです。円錐花序は小穂を密生します。左の写真のスズメノテッポウはガレージ前の水溜りに生えていました。

左下は無理やり葉鞘から円錐花序を引き離したもので芒が見えているだけで未熟です。

右下は円錐花序が伸びてきたものでおしべの葯が多数見えています。よく見ると花序の下方は白い葯が多く上方には橙色の葯が見えます。即ち、上方から下方に向かって雄蕊の葯が熟してくるのが観察でき、右最下段の写真で一層明瞭になります。



スズメノテッポウとよく比較されるイネ科植物にセトガヤがあります。セトガヤはスズメノテッポウと同じような場所に生育しますが、やや温暖な地方に多く、おしべの葯が白色であり、1つ1つの穂がスズメノテッポウよりも大きく、花穂全体が荒い点で異なります。左のセトガヤの写真はホームページから転載しました。右のスズメノテッポウの写真もホームページより転載しました。

